



森の生木者たちアート展

7月24日～8月2日ギャラリーで「森の生木者たちアート展」が開かれました。会場には郡上市在住の造形作家水野政雄さんの作品が多数展示され、中でも自然の素材を巧みに活かして創られた人形「木ぼっくり」は、その素朴で愛らしい風貌と今にも踊り出しそうな躍動感で、訪れた人々をつかの間メルヘンの世界へ誘っていました。

2日目25日には「親子で“遊学”ワークショップ

プロフィール

造形作家：水野政雄

1938年4月10日、岐阜県郡上八幡町生まれ。

1961年、多摩美術大学油絵科卒業。卒業後、ふるさとにもどり、高校の美術講師などを経て、絵画、切り絵、造型作品などの創作活動に専心。現在に至る。



」が行われ、水野政雄さん指導の下、午前中は小学校低学年の親子が折り紙を使い、午後からは高学年の親子が木の枝を使って、物を創る楽しさを体験しました。何でもない折り紙や木の枝が水野先生の手にかかると、魔法のように命を得て動き出す。「創る」という作業は、素材が本来内在する生命力を呼び覚ます行為なのだと、改めて気づかされます。

黙々と作業をする子。子どもより真剣な表情の親。親子で真剣に話し合う家族。思い思いの作業風景でありながら、会場全体が楽しく和やかな雰囲気になります。2時間後、木の枝も葉も1つ1つが全て違う表情を見せる自然素材の「個性」と、それを手にした子どもの「個性」が1つになって、それぞれに豊かな表情の「生木者」たちができあがりしました。

布 展

8月4日～9日 ギャラリー 入場者数：663名

会場に入ります目をつけたのは絞り染めでした。絞り染めは日本固有の技法と思い込んでいただけにアフリカ、インドネシアなど各地にその技法があることに驚いた。

世界の「布」を楽しむ！！

織物、1本ずつの糸が一人ひとりの人間。

人と人が出会って織りなすのが人生。

布は人生そのもの。



その織物を機械で織るのではなくギタンバッタンの手織機で織り込んでいったであろう。

また、愛しき人に想いをよせその想いを柄という形に、想い人は誰？そこはかたない想いを表現していったのだろうか…と夢想し興味をそそられた。

素朴にして繊細な柄、誰かのために織る、想いをその人に捧げようと表現したのであろうか…。

このように心のこもった布を身につけ、あるいは室内を飾る、永遠（とわ）の旅にでた人を包みその幸せを祈ったであろう布を見て織り人に心はせるひと時でした。



草取り

今年度のalaクルーズ事業の一つである「草取り、清掃活動」を7月19日に行いました。事前の呼びかけに、alaクルーズ11名、財団4名、計15名が参加し、夏日の中8時半に集合、作業を開始しました。この日だけは日よけと風通しの良い服装が一番ということで、いつものスーツ、ユニフォーム姿とは別のリラックスした姿の皆さんでした。

芝生広場を中心に、草取り、清掃を開始しましたが、ここは普段の手入れが行き届いていて目だつ雑



草も少なく、短時間で周辺部に移動。植木の根元、芝の境などの手入れを行いました。

作業を1時間も続けると、全員汗だく、蚊にさされた人もいて「夏の草取りは、とてもタイヘン」となってきました。休憩を取り冷たい麦茶で喉をうるおして再開、きれいになったところで10時頃に終了としました。

1時間30分の活動で、取った草はゴミ袋に8杯、流した汗は大量、達成感は十分という収穫でした。この後、差し入れのアイスクリームをいただき、11時前に解散しました。参加いただいた皆さん、お疲れ様でした。

豊橋からの視察

8月7日、豊橋市が主催する文化ボランティア養成講座の受講生38名がalaクルーズの視察に訪れました。まず、映像シアターでアークの説明ビデオを見た後、籠橋次長の案内で主劇場をはじめ、各施設を見てまわりました。途中ギャラリーでは開催中の「布展」を見学し、これがalaクルーズの企画であることを聞いて、活動がただ単にホールボランティアだけでなく、こういう展示も実施していることに驚いていました。

昼食後レセプションホールでalaクルーズの設立までの経緯や運営について澤野会長と支援グルー



プの大石さんが説明をしました。一行は実際の活動はまだこれからという段階のようで、特に設立時のいろんな苦労話や体験談に熱心に耳を傾けていました。最後に質疑応答が行われましたが、建設に関する事柄から運用の苦労話まで多彩な内容について質問がでました。

こういう視察は初めての方も多く、参考となることも多かったようでした。豊橋で実際に活動を始められるのはもう少し先の事ようですが、今後の皆さんのご活躍を期待したいと思います。

9月16日7時半から、スタッフルームでBBSのオフ会が行われました。^{※1} オフ会に合わせて、ホームページ委員会のメンバーも加わり、9名で始まりました。

初めてのオフ会とはいえ、普段いつも顔を合わせているメンバーばかりでしたので、乾杯と同時に話の輪が一斉に開き、全く尽きることはありませんでした。話題もパソコンの話から昔の可児の様子にまで、幅広くころころと展開してゆき、ふと気がついたら10時をとっくに過ぎていました。

オフ会

いつものまにこんなに時間が過ぎていたかと、慌てて片づけをして、散会になりました。お喋りに終始した会でしたが、お互いにコミュニケーションを一層深めることが出来たと思います。

オフ会はこれからも時々やりたいと思います。今回は残念ながら欠席された方も、内容はこんな気楽な集まりなので、次回は是非参加するようにしていただきたいと思っています。

※1 インターネット書込み掲示板
 ※2 インターネット上の特定の掲示板
 などによく出入りする人々が、実際に集まって行なう会合。



編集後記

コンサートの開場です。きりりとユニフォームに身を包んだ支援グループのメンバーがにこやかにチケットをもちりはじめました。「いらっしゃいませ」「楽しんでいってください」

創造企画のグループも自主企画の展示会に、映画会に大活躍。「いらっしゃいませ」「ご質問がありましたらどうぞ」と、しっかり市民にその姿が見えています。

しかし、我が広報グループは、会議は夜、様々なイベントにもビデオやカメラを持って会場の隅にひっそりと立っています。あまり目立ちません。でも熱意はすごいのです。今回お届けする広報紙でもおわかりのように、alaクルーズの活躍をいかに市民に伝えるか、喧喧諤諤の夜の編集会議を続けているのです。

『アーはよう、アークルーズがおらなんだからもならん』という市民の期待に応えるよう、メンバーはカメラのレンズを磨いたり、パソコンの勉強にも励んでいます。(M. B)